

東京電機大学校友会 千葉県支部だより

第5号

平成14年1月25日

事務局
千葉市稲毛区緑町
1-5-8
高率電設(株)内
TEL 043-242-1539

■五号発刊に当り

支部長 小川 重二

千葉県支部校友会の皆様お元気ですか。本年は小泉内閣誕生で行政改革、不良債権処理、規制緩和、三十兆円枠内国債発行などの旗印と、自民党員の圧倒的多数によりみごとくに総理の座を勝ち取り、奮闘しているが、そう簡単には進まない。無理な横断は日本を破壊さず、痛み分けも分かるが中小企業は即倒産に繋る。千葉タウンミーティングに参加の機会を頂いたが、そこで集められた国民の声の全国アンケートでは、総理が掲げたものがトップを占めていた。どうしてこんな国に成ったのか、これから二十一世紀に働く人達に希望と勇気を与える政策を速やかに実施してもらいたい。

アメリカでの当時多発テロ、狂牛病騒ぎ、犯罪続発景気低迷と暗い話題が多いなか、待ちに待った皇孫殿下ご誕生で明るいムードとなってきた。日本はこれを機会に生れ変わって欲しい。

校友会全国支部会は現在四十一支部と成り年度内には更に七支部が誕生する予定だそうです。神奈川、埼玉、千葉県の各支部長は会員が多い事から、校友会理事に任期は三年ですが推薦される事が多いようで私も参加することになりました。校友会についてご意見がございましたらお聞かせ下さい。

校友会には本部に商工懇話会があり現在会員は百二十一名で、各種趣味の会があります。春・秋には総会を兼ねて一泊旅行も有ります。一度覗いてみませんか、ご推薦致します。

今後千葉県支部の会員各位への種々案内には、一度でも案内のご返事を頂いた方と校友会評議員各位、商工懇話会会員各位に致したいと考えています。尚一度でもご返事を頂く為に「工学情報」が年に一度会員全員に配布されるので、その時本部と打ち合わせて、行事の案内を掲載する予定です。尚支部の幹事を十名ほど増員したいと思っていますので、宜しくご推薦下さい。

この新しい年が良い年で有り、校友会の益の発展と千葉県支部会員皆様のご健勝とご多幸の年で有りますようお祈り申し上げます。

■情報処理の基礎教育について

東京電機大学

情報環境学部長 当麻 喜弘

最近、IT技術に関する教育の一層の充実を求める声が大きくなっていますが、IT技術の教育について混乱があるように見受けられます。

その第一は、ITのユーザとしての素養を高めようというのが、ITの専門家を育てようとするのかはつきりしていない点です。IT教育というと、パソコンを学校に配備し

てその使い方を低学年から多くの学生に教えよなどとよく言われます。これはコンピュータのユーザを増やす効果はあるでしょうが、ITの専門家の養成にそれほど役立つとは思えません。自動車の運転が上手な人が増えても、自動車技術の専門家が来たことにはならないことと同じです。

パソコンを単に道具として(玩具として?)使うのを面白がっている人と、ITの専門家とは別人だと、はっきり認識する必要があります。IT技術の専門家を養成する場合、早頃から技術的基礎をきちんと、教育することが重要ですが、この点について混乱があるようです。

ITは非常に広い範囲にわたりますので、情報そのものに関する技術に話を限定しても情報が多岐にわたる量を取り扱う技術と、情報の意味を扱う技術の二つに大別できると思います。後者には機械翻訳といった具体的な技術もありますが、孤立したデータでは意味を捉えようもなく、他のデータとの体系的な関連(これをデータ構造といいますが)で着目するデータの意味を把握していることを考えますと、情報の意味を扱う技術は、情報の構造を扱う技術と違ってよいでしょう。

情報に関する基礎は名前のためか(シヤノンによって提唱された)情報理論であると言われることが時折あります。情報理論は主として情報の多寡に関する理論で、極論すれば、情報の構造に関するものではありません。したがってIT教育の基礎として情報理論を挙げるのは粗雑のそりを免れません。

コンピュータの発明以来急速に発展した情報処理の革命的な点は、文書処理のような非数値的な処理です。この非数値的処理の技術

は主として情報の構造を扱うものです。構造を扱うという一例を示しましょう。図1の一番上の行に示した数列の各要素を大きさの順(右端が最大)に並べ替えるという処理を考えます。まず、数列全体の中で最大の要素(簡単のため同じ値のものは含まないとしましょう)を右端の要素と入れ替えます。続いて第二行目に示しましたように、数列の長さを一つ減らしその短くした数列について同じことを行います。再び数列の長さを減らして同じことをおこなう(第三行目)、ということをし繰り返して、数列の長さが一になった所で停止します。これで、目的の数列が得られます(最下行)。以上の処理では、要素の大きさ(量)を大きくすると小さくするのではなく、要素間の位置関連(構造)を変えていることに注意してください。

これまでの自然科学系では連続量をベースにした取り扱いが主でした。構造を扱う情報処理では、極論すれば連続量の概念はないといってよいでしょう。したがって連続量をベースにしたこれまでの多くの、数学、たとえば微分、積分も直接には関係しないということになります。情報処理に関連する数学として、単純に微分、積分を挙げる場合がありますが、これも第三の混乱として指摘しておきたいと思えます。情報処理では、むしろ飛びとびの離散的な扱いが一つの大きな特色を成しています。これまでの自然科学系で、問題を解くとは、解イコール何々と示すことでした。情報処理で問題を解くとは、多くの場合、解を直接示すのではなく、これこれの操作を進めれば最後に解が得られるという「手続(アルゴリズム)」を求めるところです。この点も、情報処理の手法が従来の自然科学系と大きく異なる点です。先のソーティング

の例でも、数列の長さを短くして行きながら、繰り返し、最大要素を右端に持ってくるという手続きを見つけて、問題で問題を解いたのだ。

ところで、手続きを示す、あるいは、説明する場合、普通の言葉で述べていたのでは、全体像が分り難く、また、意味もあいまいになり、正確に理解されないことが生じます。そこで、形式的にきちんと定められた表記法(言語)で手続きを記述します。図 2 (a)に、先のノーディングの手続きの構造を簡単に示しましたが、図 2 (b) は、さらにこれを、形式的な言語で記述したものです(もちろん、最大要素を見つける手続きも必要ですが、ここでは、詳細かつ厳格な形式的記述をすることは避け、一部普通の言葉で簡略化して説明しています)。

手続きを示すことで問題を解くこと、その手続きを形式的な言語で記述するという点は、情報処理の手法の、これまでにないまったく新しい特色です。

このような点を情報処理の基礎教育でよく理解させ、情報処理の手法に早くから慣れ親しませることが大切です。この認識がわが国の、特に、低学年の IT 教育に未だ十分に活かされていないように見受けられます。

目下、一年生を対象に「情報処理の基礎」という科目を担当していますが、上に述べたことを念頭に内容を整え、努力しているところです。

**情報環境学部長 当麻教授が
東京電機大学新学長に就任**

平成十四年四月一日から、小谷誠学長の後任として、当麻喜弘教授が学長に就任されることになりました。新学長の御活躍と御健勝をお祈り申し上げます。

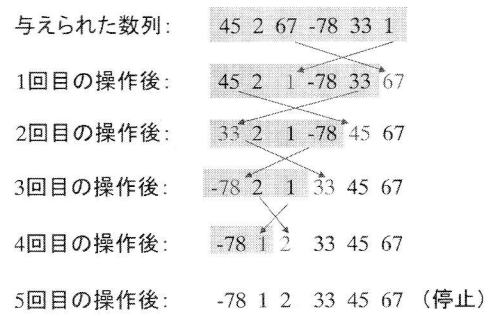


図 1

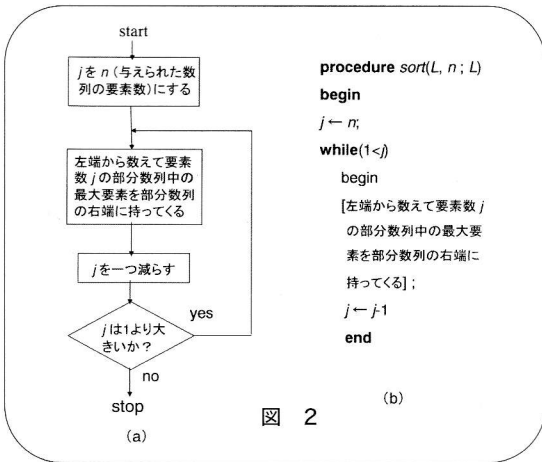


図 2

一生の友と出会いの源は「電大」

徳久 昌之

昭和44年電子工学科卒業の徳久です。

私には大学時代から30年以上お付き合いが続いている同級生の3人の友人がおります。共通点は広告研究会という同好会の仲間でした。大学2年の夏休みは4人が別々でしたが、自転車で九州まで行ったり、バイクで北陸へ行ったりしました。3年の夏休みは、この3人ともう1人の同級生5人で北海道へ軽自動車2台を連ね1カ月旅行に行きました。卒業の最後の休みは苗場でお金が続きまでプリンスホテルへ泊まり、スキー(もちろんアフタースキー)を楽しみ、その学生最後の旅行で春夏秋冬旅行をしてそこで会おうじゃないかという再会の約束をしました。最初のうち春は5月の連休、夏は夏休み、秋は祭日を利用して、冬は正月休み旅行先で再会を祝したものです。何せ独身貴族ですが給料も毎年あがる時代で明日のことは考えませんでした。そのうちの回りが汚いので、全員彼女を連れてくることになり、この彼女が全ての女房になっています。嬉しい事は友人宅を訪問しても状況を知っているせいか、気さくにける事です。独身のときは、高級ホテル等で見栄を張って、ポータスを全部使い切った事や懐かしい思い出が沢山あります。そのうち結婚して子供ができると生活の問題があるのか? ペンション等を利用したり、家族ぐるみで安価に再会をしました。そのうち中々春夏秋冬は仕事との絡みで会えなくなり、夏休みや正月休みの年1回か2回になっております。現在は皆一流企業の部長以上や、中小企業の社長になっており、費用に拘りなく、海外も含めて楽しめる場所での再会です。通算何回行ったのか本当に数え切れません。

株式会社増田電気工業所
取締役会長 増田 隆一
(昭和 10 年卒)

株式会社鹿北電気工事
顧問 田中 豊明
(昭和 34 年卒)

高率電設株式会社
代表取締役 小川 重二
(昭和 28 年卒)

株式会社キデン
常務取締役 嶋田 建弘
(昭和 40 年卒)

株式会社電機産業
代表取締役 山本 登
(昭和 21 年卒)

新星商事株式会社
顧問 花井 卓郎
(昭和 35 年卒)

交栄電気株式会社
代表取締役 大塚 武昭
(昭和 42 年卒)

城南電設企業株式会社
代表取締役 並木 鷹男
(昭和 44 年卒)

城南電設企業株式会社
常務取締役 徳久 昌之
(昭和 44 年卒)

本物の友人、旅行先で自然との触合い（特に温泉）、お酒…こんな環境では話が弾みま
す。今も感動振り返っても感動です。21世紀
を迎えるにあたり千年の友情を酌み交わす思
いで。元気でさえいれば、良いことが続く
感じが致します。思えば良き友との出会いは
東京電機大学のおかげです。感謝で一杯であ
ります。

■利尻山登山

田中 豊明

八月十二日午後、連絡船が鷺泊港に入港した。
目の前には、海からそそり立つ、利尻山（千
七百七十七米）があった。
思えば、四十三年前、山岳部の卒業記念にと、
積雪期の利尻に登る計画を、立てたが、同期
の井上氏の都合で（二部の学生は職場の長期
休暇がとれない）取り止めた。
その二年後OBになってから、井上氏が現役
部長と実行した時には、小生の、都合が悪く、
残念な思いをした。

その後、いずれのときには、と思いつつ六十
六才になってしまった。
今、OB会のロートル仲間、四名（平均年齢
六十三才）で船上から、夏の利尻山を仰いで
いる。しかし、小生の見ている、利尻は、稜
線から雪煙を上げて、真っ青な空に、突き上
げている、真っ白な、雪山である。思えば、
四十年前に戻っていた。
翌朝、キャンプ場（標高二百米）まで、宿の
車で行き、登山開始、甘露泉を過ぎると、山
みちになる、針葉樹林の中のゆるい登り坂を、
ザックの重さも気にならず、快適に行く。

森林限界をぬけるころから、登りも急になっ
てきた。快晴だが、適度の風があり、汗があまり
出ないので良いが、ザックの重さがこたえる。
五合目を過ぎ、いよいよ急な登り、ピッチを
刻み六合目の、第一見晴台に出る、そこで昼
食。ここからは、島の三分一ぐらいの海岸線
が、見下ろせる。鷺泊港に、連絡船が停泊し
ている、空港には飛行機が一機もいない。
左手には、礼文島が横たわっている。
正面北方に、三つの山なみが、微かに見える、
樺太だ。右手に、宗谷岬から、稚内のほうが
見える。

冬山だったら、こんなにのんびりと、食事を
しては、いられないだろう。

大方の登山者は、朝早く出たの帰り登山が、
一般的なので、もう登頂して下山してくる。
我らロートルは、第二見晴台をすぎ、八合目
までひとふんばりして、長官山に三時を過ぎ
て到着した。

ここに、（標高千三百十八米）幕営することに
した。（標高差千五百米を、日帰り登山は無
理な話、一日行程、予備一日を用意してきた）
快晴の、長官山からの展望は、素晴らしい。
正面に、東北稜と、沓形稜が、造り出す、鋭
い二等辺三角形が、青い空を、突き刺すよう
に、そびえている山頂。

沢すじに、名残惜しげな、残雪がある。
反対側は、島半分の海岸線が一望でき、その
先は遠くまで、一面の海だ。
沓形の街と港、礼文島、鷺泊の街と港、樺太の
山、宗谷岬、稚内の市街、遠くに知床の山並
毎度のことだが、キッチンボーイ役の二人が、
作ってくれた豪華な？夕食は最高だった。
礼文島に、沈む夕日、東の空に、満月が登っ
てくる、山上での晚餐会だった。
気温が下がり、明日の天気を約束された、野

外でのミーティング、現役時代からの山行談
義、山屋冥利に尽きるひとときだ。
翌朝快晴、御来光を拝み、朝食後、ここに不
要の物をデポして、軽いサブザックで、ピー
クハントである。
軽くなったザックに、気分も軽く、快適に稜
線に登った。
足元の可憐な高嶺の花と、遠望の海岸線が目
を楽しませてくれた。

まさに、ここは海の中の突起の上だ。

早めの昼食とり、今きたコースを下り始めた。
軽い荷での下りは最適だった。
長官山のデボを、まとめて重くなった、ザッ
クを背負って、下山した。
一日で、五百米登って、千五百米下るのは、
きつい、重い荷が膝に効く。

体は、疲れ果てながらも、気分は爽快、無事
下山した。
四十年もの間、思い続けた山を、登ったのだ。
この、感激を味わえたのも、良い山仲間のお
かげである。

現役時代、金と暇を工面しての、夏冬の合宿
テントの中で、ゆめを語り合った、仲間。O
Bになってからも、暇をみつけての山行。
ゆめを持ち続けて、ロートルになっても、
パーティを組んでくれる、有難い、仲間。
山岳部のOBで、あったことの、有難さを、
思い起こす、素晴らしい山行であった。

■武田信玄公の子孫について

嶋田 健弘

武田信玄公について語るには、信玄堤、甲

高率電設株式会社
専務取締役 小川 力
(昭和 54 年卒)

東洋熱工業株式会社
東京本店本店長補佐 松本 宏
(昭和 33 年卒)

東光電気工事株式会社
現業部長 松本 武
(昭和 39 年卒)

モデン工業株式会社
代表取締役 関 泰 雄
(昭和 26 年卒)

株式会社関電工千葉支店
副長 高橋 洋 二
(昭和 48 年卒)

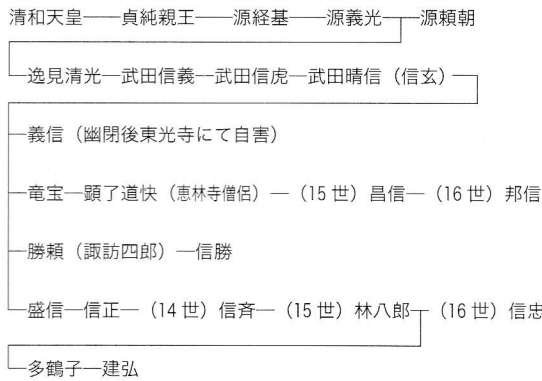
千葉電気工事株式会社
代表取締役 喜多村 賢一郎
(昭和 35 年卒)

株式会社杉沢建設
代表取締役 杉 沢 順 一
(昭和 27 年卒)

民主党千葉
第3区支部長 竹内 圭 司
(平成 4 年卒)

株式会社しの・いんしゅあらんす
代表取締役 篠 崎 浩 一
(昭和 41 年卒)

武田氏系譜



幼少の頃は信玄公の弟で戦略面で活躍し影武者としても信玄公の身代わりともなった信兼の薫陶を受けて育ちました。信玄公は安雲の森城主仁科盛政の跡を継がせて、幼名晴清から仁科五郎薩摩守盛信と改名し、高遠の地千貫を加付して仁科の名跡を継がせた。

天正元年（一五七一年）四月十二日信玄公は京へのぼる途中病魔にたおれ、下伊那の駒場で五十三才で死去した。当時の勢力範囲は群雄割拠していたが、おおよそ主権は二分され、美濃から西方は織田の勢力が浸透し、信

州金山、川中島の合戦等について述べなければなりません。私が信玄公の末裔として、その系図について先に述べます。紙面の関係で信玄公と子供達を中心に系譜を記載します。

私の先祖にあたる盛信公（幼名晴清）は、信玄公の五男として甲州石清水の館で一五五七年に生まれました。母は信玄公の側室油川夫人（油川信友の娘）で武田家に強い立派な男子をもつける為に由緒ある武田一族より嫁いで参られ、二男六女を産みました。

濃から東は武田の勢力範囲でした。両者は戦略結婚等で互いに牽制しあい、やがて天下に号令するべく虎視していた。信玄公の死を境に戦国時代の情勢は大きく変わり、將軍足利義昭は織田信長に追われ、浅井・浅倉連合軍も六角氏も滅び、長島の一戦は潰滅して本願寺教団も信長に屈服してしまいました。

信玄公以来の甲州軍団の武勇の伝統を最後まで恐れていた信長は信玄公在世中は後方にあつて勢力をとどめ、自ら正面に出て交戦することを控えていたが、信玄公の死後にわか

社団法人東京電機大学校友会
千葉県支部役員（平成 13 年度）

役	名	氏	名	電	話
支 部 長	小川	重二	043-242-1539		
支部長補佐	嶋田	建弘	03-5308-1235		
副 支 部 長	松本	武	047-370-1361		
副 支 部 長	徳久	昌之	043-295-1151		
副 支 部 長	田中	豊明	0439-67-0335		
常 任 幹 事	高橋	洋二	043-241-7331		
常 任 幹 事	松本	宏	03-3562-1351		
常任幹事(会計)	花井	卓郎	0471-66-0206		
幹 事	山本	忠雄	047-337-2380		
幹 事	黒沢	昌弘	0476-34-5670		
幹 事	重崎	始	045-651-1631		
幹 事	竹内	圭司	043-300-0195		
幹 事	坂本	金治郎	043-291-2040		
幹 事	猪狩	俊明	0436-22-4656		
幹 事	篠崎	浩一	043-254-8151		
幹 事	高久	広毅	0422-37-6488		
幹 事	畠山	忠之	03-3667-7481		
幹 事	市川	勝利	043-485-5111		
幹 事	鈴木	繁雅	03-3270-7851		
幹 事	岡野	敦	043-227-9131		
幹 事	桜井	知明	0470-82-0267		
幹 事	大塚	武昭	043-271-2735		
幹 事	葛西	信司	047-475-7393		
監 事	喜多村	賢一郎	043-224-5161		
監 事	緒形	久四郎	0474-91-6671		
相 談 役	山本	登	0473-78-4101		
相 談 役	竹内	保	047-353-2552		
相 談 役	杉沢	順一	0473-78-8951		
相 談 役	小林	健治	0473-65-4838		
相 談 役	増田	隆一	04796-2-0204		
相 談 役	関	泰雄	043-255-1911		

信濃の謡に長野の三賢人として唄われています。昭和五十六年五月三日長野県上伊那郡高遠町において盛信公の四百年忌が盛大に執り行われ、末裔として招待を受け、林家と一緒一族として参列して参りました。（紙面の都合で原稿の一部を掲載できませんでした）

■第三十二回千葉県支部通常総会開催報告

支部長補佐 嶋田 建弘

東京電機大学神田キャンパス七号館で、平成十三年六月二日（土）、千葉県支部の十三年度通常総会を約五十名の出席者にて開催しました。総会は小川支部長の挨拶につき、十二年度事業報告、十三年度事業計画案等の審議を行い承認されました。引き続き、情報環境学部長当麻喜弘教授の「情報理工学の諸問題」と題した講演会を、参加者全員が熱心に拝聴しました。

総会後、場所を十一号館十七階に移して、懇親会を開催いたしました。ご来賓として大学より常務理事宮本雅次様、校友会理事長横田等様のご祝辞を賜り、大学学長小谷誠様の乾杯により和やかな歓談に移りました。大学同窓会副会長近藤史生様、校友会事務局局長小田部宏様はじめ、校友会関係の多数の方々のご出席下さいました。前支部長関泰雄相談役の発声で、来年の再会を約して閉会となりました。最後になりましたが、会場の設営にあたり学園並に校友会事務局の皆様のご援助に厚く御礼申し上げます。

編集後記

松本 武

小泉総理大臣が誕生して最初の所信表明演説で、小林虎三郎の「米百俵の精神」を引用して国民に痛みを伴う改革を訴え、国民はこれを支持しました。私はこの時「米百俵」を知らなかったのですが、小林虎三郎は明治の初め米百俵の売却金で学校を建て、人を養成したそです。この精神は東京電機大学の「技術は人なり」に引き継がれていると思えます。

千葉県支部だよりは第五号の発行ができましたが、まだ一方通行で、会員相互の交流に至っていません。「支部だより」への感想、要望、意見をお寄せ下さい。

校友会千葉県支部名簿（約九千余名）を作成しました。在庫がありますので御希望の方は申し出て下さい。お送りします。但し送料は着払いとさせていただきます。